

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成23年9月10日
審査機関名 SGSジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	梅田スカイビルにおけるホテル冷水系統および高層冷水系統送水ポンプの変揚程変流量制御装置導入による排出削減事業
排出削減事業者名	積水ハウス梅田オペレーション株式会社
排出削減共同実施事業者名	一般社団法人 低炭素投資促進機構 (横河商事株式会社)
事業実施場所	梅田スカイビル (大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号)
事業の概要	本事業は冷水系統及び冷水系統送水ポンプに省エネルギーシステムを導入し、消費電力を削減することによりCO2排出量を削減する事業である。
	<限界電源炭素排出係数使用の場合> 2011年度： 129tCO2/年 2012年度： 164tCO2/年 (事業実施期間合計293tCO2/年) <全電源炭素排出係数使用の場合> 2011年度： 74tCO2/年 2012年度： 110tCO2/年 (事業実施期間合計184tCO2/年)
国内クレジット 認証期間	開始日 2011年 8月1日 終了予定日 2013年 3月 31日
排出削減方法論	方法論番号005 間欠運転制御、インバーター制御又は台数制御によるポンプ・ファン類可変能力制御機器の導入

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されたこと	事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した 排出削減事業実施場所：梅田スカイビル 大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 事業実施サイトの視察日付：2011年9月2日
追加性を有すること	1) 法的義務がないこと 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2排出量の削減を目的として実施されたことを関係者への質問等により確認した。 2) 設備が継続利用可能なこと 排出削減事業を実施せず、設備更新を行わない場合、既存設備を継続して利用できることを、現地における関係者への質問及び関連書類にて確認した。 3) 投資回収年数 排出削減事業の投資回収年数は3.3年である。投資回収年数計算の根拠データについて、事業者及び関係者への質問及び検算、関連証憑との突合により適切性を確認している。また投資回収年数の算出については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。 4) 追加性判断における定性要因 本事業者は環境省エネ推進委員会を結成し、ビル・ホテル内における省エネルギー、廃棄物の削減等に取り組んでいる。また、BEMSを導入しエネルギー使用量の把握、分析、改善等を行っている。本事業はその内の一環であり、国内クレジットを意識しつつ、本事業を計画したことを現地インタビューにて確認した。また、制度参加により環境への配慮及びCSR効果もアピールできることも事業実施の一因になった。
自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者への質問、関係者への質問等により、本実施事業所が自主行動計画に参加していないことを確認している。
排出削減方法論に基づいて実施されること	1) 本排出削減事業は、承認済排出削減方法論005に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを確認している。 「方法論005」 適用条件1：既存ポンプ設備に変揚程変流量制御装置を付加し、可変能力制御を導入していることを現地確認及び関連書類等にて確認した。 適用条件2：事業実施前後にエネルギー使用量に最も影響を与える活動量である稼働時間を計測できることを関連書類等にて確認した。 2) その他、バウンダリーの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

4. 特記事項

・特記事項ナン

以上